

I 今回のテーマ 子どもは何人ほしい？ ママたちの理想と現実

—————100 人のママに聞きました—————

2005 年の合計特殊出生率は 1.25 と過去最低を記録しました。女性が子どもを生まなくなった背景については、さまざまな検討がなされていますが、あえて生まない選択をしている人がいる一方で、「生みたくても生めない」という人も少なくありません。

そこで今回、ママたちは「理想では何人の子どもがほしいのか、現実には何人の子どもを生まうと思っているのか」を調査しました。ママたちの声からは、理想と現実のギャップが浮かび上がってきました。

半数以上の人、子どもは「3人以上が理想」

「理想では、子どもは何人ほしいか」をたずねたところ、100 人中 98 人が 2 人以上の数をあげ、3 人以上と答えた人が 53 人と、半数を超えました（図 1）。

その理由としては「きょうだいの中で学ぶことが多い」というママの意見が多くあり、さらに「2 人きょうだいよりも、3 人のほうがより社会性が身につく」と回答したママもいました。ママたちが、子ども自身の人間性を高めるうえで、きょうだいの存在が重要と考えていることがうかがえます。

一方、「現実には、何人生もうと思っているか」をたずねたところ、1 人あるいは 2 人と答えた人が 82 人と全体の 8 割を占めており、半数近い人が、理想どおりに生むことは難しいと考えていることがわかりました。

1 人っ子を理想とした人がわずか 2 人であるにもかかわらず、「現実には子どもは 1 人でよい」と答えた人が 20 人にのぼることに象徴されるように、理想と現実の間には大きなギャップがあります。

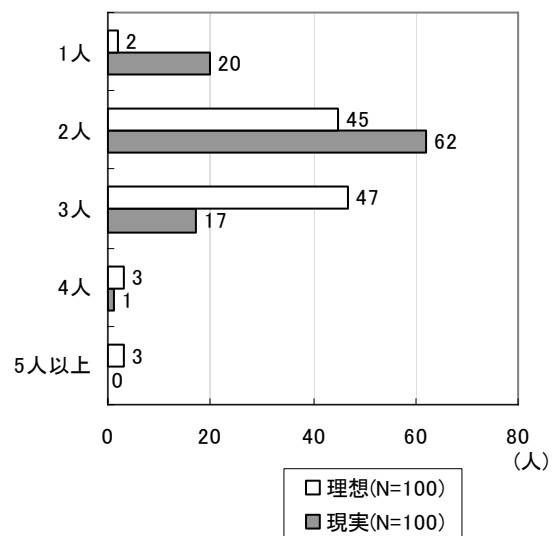
その理由として目立ったのは、「子育てにはお金がかかるので、これ以上生むのは無理」と経済的な問題をあげる声と、「年齢的・体力的に、2 人以上はきつい」というように、年齢を理由にする声です。今回の回答者の年齢をみると、30 歳以上の人約 6 割を占めており、出産を考えるとときに晩婚化・晩産化が大きく影響していることがうかがえます。

また、「(不妊症で) ほしいからといってすぐにできる身体ではない」「出産時の痛みを考えると生めない」「子育てが大変で、1 人だけで精一杯」といった声もありました。

「社会の冷たさ」も、少子化の一因

「少子化が進むのはなぜだと思うか」という質問については、100 人中 39 人が「経済的理由」をあげ、続いて「働く女性の増加」13 人、「晩婚化」11 人となっています（図 2）。

図 1 理想では子どもは何人ほしいですか？
現実には何人生もうと思っていますか？



また、「出産できる産婦人科の減少」「保育施設に入りにくい」「再就職が難しい」のように、社会全体が子どもを生みにくい環境になっていることを指摘する声もありました。

印象的だったのは「子育てをしている人に対して社会が冷たい」という回答です。

「子どもを連れていくと迷惑がられるケースが多い。社会的にはもっと子どもを生んでほしいと言っているが、本音と建前は違う」「駅やデパートにでかけると、子どもに対する視線が冷たいと感じる」「社会の風潮が変わらない限り少子化問題は解決しない」といった声からは、妊婦や子どもに冷たい、子育てしにくい社会であることを、ママたちが肌で感じていることがうかがえました。

また、少数意見ですが「社会環境の悪化で、子どもの将来に不安を感じる」「核家族化で、母親自身の閉塞感が強い」などの声もありました。

出産前からの支援を望む声も

「どんな少子化対策を求めるか」という質問に対しては、やはり「経済的支援」をあげる人が多数を占めました（図3）。

「経済的支援」というと、出産助成費や育児手当など、「出産後の経済的支援」に目が向けられがちです。しかし、今回のアンケートでは不妊治療を経て子どもを授かったという人もおり、不妊治療や妊娠中の健診費用の助成など、「出産前からの経済的支援」を望む人も10人いました。

2番目に多かったのは「働きやすい職場環境・制度」(12人)で、「育児休暇制度があっても、同僚に迷惑がかかるので、現実には取りにくい」「育休制度が機能していない企業が多い」「育休取得後、仕事に復帰するためのシステムが確立していない」など、切実な声があがっています。

まして夫の育児休暇となると「制度としてはあっても、実際には忙しくて使えない」のが現状で、「男性も育児休暇を取れるようにしてほしい」「男性の意識そのものを変えてほしい」という声もありました。

また、病院など自分の用事を済ますときに、子どもを短時間預ける場や、子育てやママ自身の悩みを話せる相談窓口、子育ての情報交換ができるような近所の人との交流の場や機会、地域で子育てを助け合う仕組みなどを求める声もあり、核家族化で孤立しがちなママたちの姿が垣間見えました。

数は少なかったものの、「子どもを安全に育てられる環境を整備してほしい」「小児科を増やしてほしい」などの声からは、現在の社会状況では、子どもを安心して育てられないというママたちの不安が伝わってきます。

図2 少子化が進むのはなぜだと思いますか？
(N=100、複数回答:上位10項目)

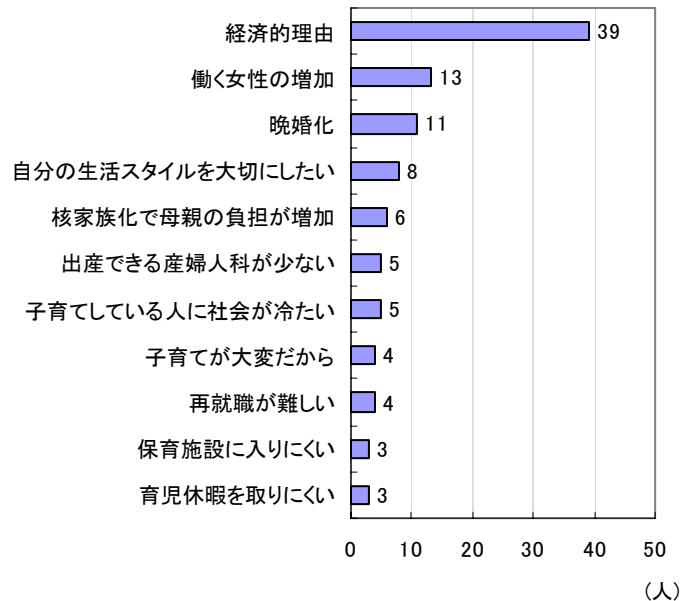
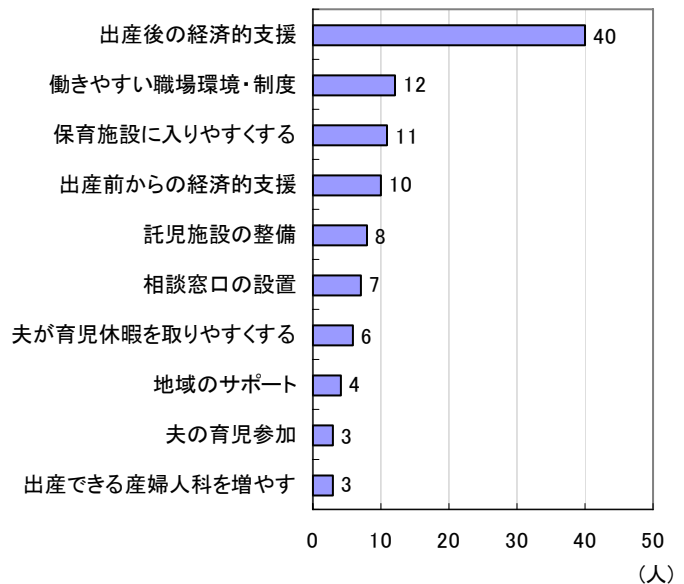


図3 どのような少子化対策を求めますか？
(N=100、複数回答:上位10項目)



昨年、国が人口動態統計を開始して以来初めて死亡数が出生数を上回り、人口減少社会が現実のものとなりつつあります。人口減少に歯止めをかけるには、1組の夫婦が3人以上の子どもを生む必要があると言われていました。

アンケート結果を見る限り、ママたちも、子どもは多いほうがよいと考える人がたくさんいます。けれど、現在の社会状況を考えると、3人以上の子どもを持つことをあきらめざるをえないようです。

経済的支援はもとより、職場環境・制度の改善、地域のサポート、そしてなにより、妊婦や子どもに暖かく手を差し出すことができる社会へ、意識そのものの改革が求められています。

【HOT VOICE】

理想と現実、ギャップの理由は？

<経済的な問題>

- ・子どもはかわいいし、にぎやかなほうがいいが、子育てにはお金がかかるので2人が精一杯。
(32歳、1歳4ヵ月/3人→2人)
- ・経済的に2人育てるのは難しい。子どもを安心して預けられる環境があれば、仕事との両立ができ、経済的にも安定して子どもが生めると思う。
(28歳、9ヵ月/2人→1人)

<仕事との両立が困難>

- ・現在育休中で、会社からは半年で戻ってほしいと言われているが、保育所が見つからない。育児と仕事を両立するための環境が整わないのでは、生みたくても生めない。
(34歳、5ヵ月/3人→2人)
- ・子どもの数だけ産休・育休を取ることになるが、今の会社は理解してくれる人が少ないので休みがとりにくい。男性も含めて、堂々と育休を取れる環境が必要。
(29歳、10ヵ月/3人→2人)

<年齢の壁>

- ・もうすぐ40歳になるので、あと1人生めればラッキーだと思う。
(38歳、11ヵ月/3人→2人)
- ・年齢的に3人生むのは無理。親は遠方に住んでいるので、出産してからずっと1人で子育てをしている。身近に頼れる人もおらず、気持ちが落ちこみ気味。
(37歳、2ヵ月/3人→2人)

<不妊症>

- ・体外受精で双子の男の子を授かった。女の子が生まれるのなら明日にでも妊娠したいくらいだが、第三子を生むには、また治療が必要なので迷っている。
(30歳、2歳2ヵ月/3人→2人)
- ・不妊治療の費用負担が大きく、かといって仕事をすると病院に通えなくなる。欲しくてもできない人も多いと思うので、不妊治療費の助成を増やしてほしい。
(37歳、9ヵ月/2人→1人)

<自分の時間も大切>

- ・仕事を生きがいに何ごとも自分中心の生活だったので、育児を負担に感じてしまう。
(36歳、9ヵ月/3人→1人)
- ・今でも子育てが大変なので、あと1人で手一杯。子どもがいると、自分の時間が少なくなってしまうのがつらい。
(28歳、8ヵ月/3人→2人)

<頼れる人がいない>

- ・実家は遠いし、夫は夜勤の仕事なので頼りにならない。子育てを1人で背負う負担感が大きく、外で仕事をしているほうがずっと楽だと思う。
(29歳、5ヵ月/3人→2人)

* () 内は、母親の年齢、子どもの月齢/理想とする子の数→現実に生もうと思う数

調査の概要

- 対象 : 「エンゼル 110 番」にお電話をいただいた子育て中のママ 100 人
- 調査方法 : 電話による聞き取り調査
- 調査期間 : 平成 18 年 8 月 2 日～平成 18 年 9 月 4 日
- 対象者の属性 : 「母親の年齢」 10 代…1 人、20 代…40 人、30 代…57 人、40 代…2 人
「母親の職業」 無職…78 人、正社員…9 人、自営業…3 人、パート…4 人、
休職中…2 人、不明…4 人
「末子の年齢」 6 ヶ月未満…52 人、1 歳未満…31 人、1～2 歳代…16 人、
3 歳以上…1 人
「子どもの性別」 男の子…56 人、女の子…44 人
「居住地」 首都圏…55 人、首都圏以外…42 人、不明…3 人

II. 最近の電話相談から

赤ちゃんにはその時期に特有の「くせ」のような行動が見られることがあります。

発育や発達に大きな支障はないものの、毎日接しているママたちには気になって仕方がないこともあるでしょう。エンゼル 110 番にも、赤ちゃんの気になる「くせ」についてのご相談が寄せられることが少なくありません。

【大きな声を出す】

Q 1：起きている時にキーキー、キャーキャーと声を出します。あやせば少し良くなるのですが、スーパーや銀行など外出先でも声をあげるので困っています。どこから出しているのかと思うような声なので、周囲の人もびっくりするみたいです。どんな子でもするものなのですか。

(0 歳 5 ヵ月)

A：赤ちゃんが金切り声のような声を出すというご相談はよくあります。かんが強いのでは、喉がおかしくなるのでは、と心配されるママが多いのですが、このような声は生後 5～9ヵ月くらいの赤ちゃんにはよくあります。「うれしい」とか「ワクワクしている」などという感情表現であったり、また、様々な声の出し方を試すということもあります。いずれにしても、一時的なものでだんだん治まってくるでしょう。

【首を振る】

Q 2：生後 9 ヵ月頃から寝入る前に首を激しく振ります。そのうちにしなくなるかと思っていたのですが、もう 1 ヵ月位続いています。大丈夫でしょうか。

(0 歳 10 ヵ月)

A：生後 3 ヵ月頃から、寝かせていると首を左右に振る赤ちゃんが時々みられます。特に寝つく時に多いようですが、これは一種の「くせ」であることが多いようです。脳に悪い影響があるということもまずないでしょう。健診も順調で、何か気になる点がなければ、あまり心配されなくてもよいでしょう。

【頭をぶつける】

Q 3：ここ 1～2 ヵ月位、気に入らないことがあると床に頭を打ちつけます。家の中のフローリングや道路でもやるので頭がどうにかなってしまわないかと心配です。どう対応すればいいですか。

(1 歳)

A：1 歳を過ぎて何でも自分でやりたい年齢になってくると、やりたいことがうまくできなかつたり、制止されたりすると、子どもはその時の悔しい気持ちをいろいろな形で表現しようとします。かんしゃくをおこしたり、床にひっくりかえって駄々をこねたり、今回のように床や壁に頭をぶつけるという子もいます。お子さまも何かができなくてとても悔しかったのかもしれませんが。言葉が上手に話せるようになってきたり、できることが増えてくると、だんだんとやらなくなります。今はお子さまの周辺から突起物などの危ないものを取り除き、気持ちがおさまるまで見守ってみましょう。また、その時のお子さまの気持ちを周りの大人が言葉で代弁してあげるのもよいでしょう。

【爪をかむ】

Q 4：1 歳半位までは指しゃぶりをしていましたが、いつの間にか爪をかむようになっていました。暇な時にかんでいるようです。弟が 1 歳半になり手がかかるので、お兄ちゃんに十分かわれていません。そのことが原因なのでしょうか。

(3 歳)

A：爪をかんだりする口周辺のくせは、知らず知らずのうちにストレス解消に繋がっているようです。お子さまもお兄ちゃんとして我慢しなければならぬことがあるのでしょう。ママがおっしゃるように、下のお子さまにママをとられて寂しいのかもしれませんが。あまり怒ったりやめさせようとしないで、気分転換を図りながら様子を見ましょう。下のお子さまのお世話で大変ですが、時々はお兄ちゃんとママが二人で過ごす時間を持つ工夫をしてみるといいかもしれません。

Ⅲ エンゼル 110 番利用件数（平成 18 年 7 月～9 月）

1975 年の開設以来、約 79 万件のお電話をいただきました

●月齢別利用件数（利用対象者は、妊娠中から 6 歳の幼児をもつ親）

	妊娠中	0 カ月	1 カ月	2 カ月	3 カ月	4 カ月	5 カ月	6 カ月	7 カ月
件数	126	301	312	208	184	160	168	167	119
(%)	(4.2%)	(10.1%)	(10.5%)	(7.0%)	(6.2%)	(5.4%)	(5.6%)	(5.6%)	(4.0%)
累計	55,241	72,718	84,369	65,381	55,260	46,534	48,694	42,202	30,539
(%)	(6.9%)	(9.1%)	(10.6%)	(8.2%)	(6.9%)	(5.8%)	(6.1%)	(5.3%)	(3.8%)
	8 カ月	9 カ月	10 カ月	11 カ月	1 歳代	2 歳代	3 歳以上	不明	合計
件数	155	133	85	67	281	142	248	118	2,974
(%)	(5.2%)	(4.5%)	(2.9%)	(2.3%)	(9.4%)	(4.8%)	(8.3%)	(4.0%)	(100.0%)
累計	26,086	25,978	20,452	17,805	93,749	45,827	63,344	2,291	796,470
(%)	(3.3%)	(3.3%)	(2.6%)	(2.2%)	(11.8%)	(5.8%)	(8.0%)	(0.3%)	(100.0%)

※累計：1975 年 5 月の開設以来の総件数

●相談内容別件数

	食事	身体	予防	発達	情緒	躾・教育	生活	妊娠	親	その他
件数	2,865	1,072	37	234	365	187	314	187	301	40
(%)	(51.2%)	(19.1%)	(0.7%)	(4.2%)	(6.5%)	(3.3%)	(5.6%)	(3.3%)	(5.4%)	(0.7%)
										合計
										5,602
										(100.0%)

※相談内容は、1 回の利用について複数にわたることが多いため、利用件数と一致しない